

## 平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。このような取組を通して、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成21年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### I 調査の概要

#### 1 目的

ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ウ 各学校が、各生徒の学力や学習状況を把握し、生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### 2 調査期日

平成21年4月21日（火）

#### 3 調査対象

第3学年

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 140人 国語B 142人

② 数学A 142人 数学B 142人

#### 5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」などの分析を併せて記載した。

## II 調査結果の概要

### 1 国語

#### 全体的な傾向

全体的に見ると、国語 A・国語 B の両方において、全国平均正答率と同程度かやや下回る結果となっている。宇都宮市との比較においては、若干下回る数値を示している。そのような中であって、書くこと・書く能力においては全国レベルをほんのわずかながら上回っている。

#### <分類・区分別集計結果>

##### 【国語 A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	4	85.4	88.8	86.8
	書くこと	3	64.8	68.1	64.6
	読むこと	10	75.0	77.1	75.7
	言語事項	17	73.7	76.7	76.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	85.4	88.8	86.8
	書く能力	3	64.8	68.1	64.6
	読む能力	10	75.0	77.1	75.7
	言語についての知識・理解・技能	17	73.7	76.7	76.0
問題形式	選択式	19	76.4	77.9	76.0
	短答式	14	74.3	78.4	78.4
	記述式	0			

##### 【国語 B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	5	66.8	74.5	72.5
	読むこと	11	69.9	76.5	74.5
	言語事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	64.6	73.1	70.8
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	5	66.8	74.5	72.5
	読む能力	11	69.9	76.5	74.5
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	3	67.4	72.3	70.2
	短答式	3	77.7	83.9	82.0
	記述式	5	66.8	74.5	72.5

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

### ●【話すこと・聞くこと】

国語 A・国語 B ともに全国・宇都宮市の平均正答率より低い。

### 【書くこと】

国語 A においては宇都宮市の平均正答率より低いが、全国よりやや高い。

### ●【読むこと】

国語 A・国語 B ともに全国・宇都宮市の平均正答率より低い。

### ●【言語事項】

国語 A・国語 B ともに全国・宇都宮市の平均正答率より低い。

### 【その他】

## 国語に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

### 《傾向》

- 全国の平均よりも低い数値からも、全体的に学習意欲が低いことがうかがわれる。また、学習に困難を感じている生徒も見られる。

## 指導改善のポイント

### 【話すこと・聞くこと】

話の要点を押さえながら聞き取る指導の充実を図る。

### 【書くこと】

構成に従って短い意見文を書く回数を増やす工夫をする。

### 【読むこと】

### 【言語事項】

漢字の読み書きが正確にできるように学習と確認を反復的に繰り返す指導の充実を図る。

### 【その他】

## 2 数学

### 全体的な傾向

数学A→「数と式」、数学B→「数と式」「図形」「数量関係」全ての項目で低い正答率である。特に数学Bの「数量関係」は「宇都宮」「全国」の平均を大きく下回り、今後の重点課題である。

### <分類・区分別集計結果>

#### 【数学A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	11	62.3	67.7	67.3
	図形	11	64.9	66.7	64.6
	数量関係	11	54.7	57.7	56.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	9	58.9	64.5	63.7
	数量・図形についての知識・理解	24	61.3	63.9	62.3
問題形式	選択式	20	59.4	62.3	60.5
	短答式	13	62.5	66.7	66.1
	記述式	0			

#### 【数学B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	3	58.2	63.0	61.4
	図形	6	54.1	59.3	57.5
	数量関係	6	48.9	54.7	54.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	48.7	53.7	52.4
	数学的な表現・処理	2	63.7	71.0	70.1
	数量・図形についての知識・理解	1	81.0	86.4	85.3
問題形式	選択式	6	57.7	63.3	61.6
	短答式	4	66.0	71.1	70.3
	記述式	5	36.5	41.7	40.6

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

### ●【数と式】

数学A・Bともに正答率が低い。

### 【図形】

数学Bがかなり低い。

### 【数量関係】

数学Bが低い。

### 【その他】

選択式問題は、数学A・Bともに比較的对応できている。記述式、短答式が苦手である傾向を示している。このことから、知識を考え方に生かしたり、記述したりすることが苦手なことがわかる。

## 数学に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

### 《傾向》

- 数学の内容の理解度、授業への取り組みなどは全国平均よりも高い。
- 数学の利便性、有効性については授業で扱うことが少ないため、全国同様に低い。
- 解答時間の中で、見直しをする時間を取らない生徒がいる。
- 記述式問題への対応の仕方に悩む生徒がいる。

## 指導改善のポイント

### 【数と式】

計算力を高めるために、年間を通して習熟度に応じながら、数と式の領域に触れる機会を増やす。

### 【図形】

図形に対する見方を広げるために、実物を使った数学的活動を取り入れる機会を増やす。

### 【数量関係】

数学的見方、考え方を高めるために、具体的事象を扱いながら、生徒が数量関係を自ら見出し、記述する機会を増やす。

### 【その他】

ケアレスミスを防ぐために、解答時間の中で見直しをする習慣を身につけさせる。

### 3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

#### 《傾向》

- 「数学の勉強は好きですか」「数学の授業の内容はよくわかりますか」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、栃木県や全国と比較して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が多く、数学の学習の必要性や意欲を感じている生徒が多い。
- 朝の読書活動の成果の表れとして、「昼休みや放課後、学校図書館などへ行きますか」では、栃木県や全国と比較して大変高い割合になっている。
- 「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」では、栃木県や全国と比較して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が低く、普段の授業で、話し合い活動が少なく、自分の考えをまとめ、わかりやすく説明することを苦手としている生徒が多い。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の割合が、栃木県や全国と比較して低く、自己の肯定感や自分への自信が低いことがわかる。
- 「学校の規則を守っていますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、栃木県や全国と比較して、「当てはまる」「どちらかという、当てはまる」を選択した生徒が少なく、モラルの低い傾向を示しており、今後さまざまな場面で道德教育の充実が望まれる。